

第2章 食育推進計画

めざす姿

いっしょに食べよう 心も体もおいしい食事

コミュニケーションを大切にし、心にも体にも健康的でおいしい食事がとれるように、みんなで取り組んでいきます。

□重点的取り組み□

食育推進計画では2つの重点的な取り組みを行います。

重点的取り組み1 生涯にわたるライフステージに応じた食育の推進

生涯健康で過ごすためには、健康的な食習慣を身につけることが大事です。子どもから大人まで、主食・主菜・副菜をそろえたバランスのよい食事がとれるように、地元の野菜を取り入れた料理の紹介を行います。

事業計画：広報などで地元の野菜を取り入れた料理の紹介

平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
12回	12回	12回	12回	12回

重点的取り組み2 食を通じたコミュニケーションの推進

家族や仲間と一緒に食事を楽しむことは、心や体を元気にしてくれます。共食きょうしょくの機会が増えるよう、その大切さを伝えていきます。

事業計画：教室などで共食きょうしょくの大切さについて啓発の実施

平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
30回	33回	35回	38回	40回

1. 食と健康づくりの推進

(1) 生涯にわたるライフステージに応じた食育の推進

【健康課題からみえた市の取り組み】

野菜を苦手とする児童が32.3%、生徒が30.7%います。厚生労働省の野菜摂取目標量は1日5皿となっていますが、成人の1日の野菜摂取量では4皿以下の人が88%でした。

食事の内容も1日に主食・主菜・副菜を3つそろえて食べる回数が2回以上の成人が65.1%でした。年代別でみると若い年代ほどバランスよく食べていない傾向があります。

子どもから大人まで健康を意識して野菜を食べることの大切さと、主食・主菜・副菜をそろえた食事をするることの大切さを伝えていきます。

【現状値及びめざそう値】

目標項目	現状値			めざそう値	
	数値	測定年度	現状値の出所	数値	測定年度の目安
苦手な食べ物（野菜）がある子どもの割合の減少（小学生・中学生）	小学生 32.3% 中学生 30.7%	26年度	白井市民の「健康」に関するアンケート調査	小学生 28%以下 中学生 25%以下	31年度
1日に野菜料理を5皿以上食べる人の増加（20歳以上）	9.4%	26年度	白井市民の「健康」に関するアンケート調査	15%以上	31年度
1日に主食・主菜・副菜を3つ揃えて食べる回数が2回以上の割合の増加（20歳以上）	65.1%	26年度	白井市民の「健康」に関するアンケート調査	70%以上	31年度
3食必ず食べることに気をつけている人の割合の増加（30歳代～40歳代）	61.8%	26年度	白井市民の「健康」に関するアンケート調査	65%以上	31年度

【主な取り組み事業】

事業名	事業の概要	担当課	関係機関
食の啓発事業	野菜を取り入れた手軽に作れる健康的なレシピを広報・ホームページや市のイベントなどの人が集まる場で紹介し、バランスよく食べるための啓発を行います。 また、保育園や学校などにおいて、子どもの頃からバランスよく食べる必要性について啓発を行います。	○健康課 ○保育課 ○学校教育課	
食育事業	乳幼児や学齢期では、保護者や子どもに、朝昼夕の3食をきちんと食べ、生活リズムを整えることを伝えます。 全ての年代を対象に、野菜を取り入れたバランスのよい食生活について伝えます。	○健康課 ○保育課 ○学校教育課 ○高齢者福祉課 ○企画政策課	

事業名	事業の概要	担当課	関係機関
給食事業	保育園給食や学校給食において、子どもが食べやすい野菜メニューをとりいれ、バランスのよい給食の提供をします。	○保育課 ○学校教育課	
相談事業	乳幼児健康診査や健康相談、また、児童館などにおいて、食に関する心配ごとの相談を行い、食生活が気になる人に対しては、バランスよく食べるための支援をします。	○健康課	

【市民の皆様への提案～こんなことからやってみよう！】

乳幼児期	●乳幼児期の成長発達に応じた、バランスのよい食事ができるようにしましょう。
学齢期	●野菜を食べることの大切さとバランスのよい食生活について理解しましょう。
成人期	●自身や家族のために野菜を取り入れたバランスのよい食生活について理解し、実践しよう。
高齢期	●バランスのよい食生活を理解し、個人に合った食べ方を実践しよう。

コラム 食育1 グー・パー食生活

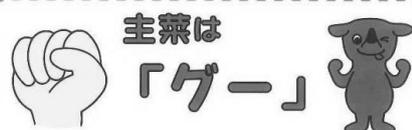
日本の食事の基本は「配膳」です。食事の主役は「主食」です。主食をおいしく食べるためのおかずには「主菜」と「副菜」があります。「主菜」と「副菜」の種類と量はバランスのよい食事のポイントとなります。

主菜は「グー」の量、副菜は「パー」の量を実践するのが「グー・パー食生活」です。



日本型食生活「配膳」☒

グー・パーはおかずのおおよそのめやすです



主菜は

「グー」

主菜の1食分の量は
グーの大きさ厚さ2cmをめやすに！



主菜になる食品は

肉・魚・たまご・大豆



副菜は

「パー」

副菜の1食分の量は
パーにたっぷりめざして！



副菜になる食品は

野菜・海藻・きのこ・こんにやく



「グー」「パー」は、おかずの1食分のおおよその望ましい量を簡単に考えるためのものです。

資料：千葉県「グー・パー食生活ガイドブック（概要版）」

(2) 食育による生活習慣病の予防及び改善

【健康課題からみえた市の取り組み】

よく噛んで食べていない児童が14.3%、生徒が14.4%います。30～50歳代では早食い傾向の人が46.0%、食べ過ぎ傾向の人が34.2%など、好ましくない食習慣を持つ人が多い傾向にあります。また、40～60歳代の男性では21.4%の人が肥満傾向にあります。

生涯健康で充実した人生を送るために子どもの頃からよく噛んで食べる習慣を身につけること、30～60歳代ではよく噛んで食事をするこゝで食べ過ぎを防ぎ、適正体重の維持につなげるよう取り組みます。

【現状値及びめざそう値】

目標項目	現状値			めざそう値	
	数値	測定年度	現状値の出所	数値	測定年度の目安
よく噛んで食べている子どもの割合の増加（小学生・中学生）	小学生 63.5% 中学生 54.2%	26年度	白井市民の「健康」に関するアンケート調査	小学生 70%以上 中学生 60%以上	31年度
BMI値が25以上（肥満）の人の割合の減少（20歳以上）※	19.8%	26年度	白井市民の「健康」に関するアンケート調査	15%以下	31年度
減塩や薄味を心がけている人の割合の増加（20歳以上）	60.0%	26年度	白井市民の「健康」に関するアンケート調査	65%以上	31年度

※このめざそう値は、健康増進計画のめざそう値としての位置づけもあります。

【主な取り組み事業】

事業名	事業の概要	担当課	関係機関
食育事業	乳幼児期や学齢期では、よく噛んで食べることの大切さについて伝えます。 成人期では、生活習慣病を予防するため、よく噛んで食べ、食べ過ぎず適正な体重の維持につながるよう伝えます。	○健康課 ○保育課 ○学校教育課	
給食事業	保育園給食や学校給食では噛みごたえのある食材を使用した献立を提供し、よく噛んで食べる習慣を促します。	○保育課 ○学校教育課	
特定保健指導事業	生活習慣病のリスクが高い人を対象に生活習慣を改善するため、個別面接や集団教室などを行い、適正な体重を維持できるような取り組みを行います。	○健康課	

【市民の皆様への提案～こんなことからやってみよう！】

乳幼児期	●子どもの成長発達に応じ、さまざまな食品を食べ慣れることで偏りなく、よく噛んで食べられるようにしましょう。
学齢期	●栄養のバランスを理解し、食材を偏りなく食べられ、よく噛んで食べるようにしましょう。
成人期	●健康的な食生活について理解し、よく噛んで食べることによって食べ過ぎを防ぎ、適正体重が維持できるようにしよう。
高齢期	●バランスのよい食生活を理解し、自らの健康を意識しながら、個人に合った食生活を実践しよう。

コラム 食育2 噛ミング30

厚生労働省では、一口30回以上噛むことを目標とした「噛ミング30（カミングサンマル）」運動を提唱しています。30回というのは、窒息防止や五感での味わいを考慮し、従来から噛む回数を目安とされている回数です。

近年、食感が軟らかく、口の中でとろけるような、噛みごたえの少ない食べ物が好まれ、噛む回数が減っています。また、短時間で食べることも噛む回数を減らしてしまいます。

私たちは弾力や硬さのある食事を口にすることで噛み砕く作業（咀嚼）を無意識のうちにしています。この噛み砕く作業の回数を意識的に増やすことで、より多く唾液が分泌されて胃腸の消化吸収を助け、唾液に含まれる免疫物質が口の中を清潔にします。

また、よく噛んでおいしく楽しく食事を味わうことでストレスを解消し、食べ過ぎの防止にもつながります。さらに、満足感や満腹感が感じられるほか、脂肪を燃焼するホルモンが分泌されるなど、代謝が良くなるのでよく噛む習慣をつけましょう。

何より、生涯自分の歯で噛んで食べられることは幸せなことです。幼児期から噛む習慣を身に付けられるように、発達に見合った食べ物でモグモグ、パクパクしっかり噛む力を育みましょう。一口の量を少なくし、家族みんなで30回を目標によく噛んで食べることを習慣にしましょう。



2. 食を通じたコミュニケーション

(1) 食を通じたコミュニケーションの推進

【健康課題からみえた市の取り組み】

「共食」の意味を知らない人が74.3%います。また、家族と一緒に食べている人は朝食に比べて夕食の方が多く、家族と一緒に夕食を食べている日数が週3日以内の人は23.1%でした。

家族と一緒に食べることで、子どもに食事のマナーや食文化を伝える機会につながり、高齢期では食事の楽しさを味わい、生きがいを感じることに繋がります。忙しい日々にもできるだけ家族や仲間と一緒に食事をする機会を増やすことの大切さについて伝えていきます。

【現状値及びめざそう値】

目標項目	現状値			めざそう値	
	数値	測定年度	現状値の出所	数値	測定年度の目安
「共食」の意味を知っている人の割合の増加(20歳以上)	20.5%	26年度	白井市民の「健康」に関するアンケート調査	40%以上	31年度
家族と一緒に食事をする回数の増加(20歳以上)[朝食+夕食]*	週9.1回	26年度	白井市民の「健康」に関するアンケート調査	週10回以上	31年度

*共食の回数は「ほとんど毎日食べる」を週7回、「週に4～5日食べる」を4.5回、「週に2～3回食べる」を2.5回、「週に1回程度食べる」を1回とし、それぞれ朝食・夕食ごとに、該当人数を掛け、合計したものを全体数で割り、朝食と夕食の回数を足して週当たりの回数を算出しています。

【主な取り組み事業】

事業名	事業の概要	担当課	関係機関
食の啓発事業	広報やホームページ、各種料理教室などで家族や仲間と共に食事を楽しむことの重要性を啓発します。 保育園や学校などでは家族や仲間と一緒に食事をする大切さや必要性について啓発します。	○健康課 ○保育課 ○学校教育課	○食生活改善推進協議会
給食事業	保育園給食や学校給食の場では友達や先生と一緒に食べることの楽しさを知り、また、マナーを身につけることにつなげます。	○保育課 ○学校教育課	
児童館での食育活動	地域の子どもが調理実習に参加し、友達や仲間と一緒に調理し食べることで、食の楽しさを体験する機会をつくれます。	○子育て支援課	
高齢者食事会事業	市内の地区社会福祉協議会が、独居高齢者や高齢者世帯を対象に食事会を開催し、高齢者の共食の機会を増やします。地区によっては小学生なども参加し、世代間交流の場として実施します。	○高齢者福祉課	○市社会福祉協議会

【市民の皆様への提案～こんなことからやってみよう！】

乳幼児期	●家族や仲間と一緒に食べることの楽しさを実感しよう。
学齢期	●家族や仲間と一緒に食べることの楽しさを実感し、食への関心を高めよう。
成人期 高齢期	●共食 <small>きょうしょく</small> の意味を理解し、家族や仲間と一緒に食事をする機会を増やそう。

コラム 食育3 孤食こしょく



かつての日本人の食卓は家族がそろって絆を深める場であり、食事のマナーや偏食の改善などが日常的に行われていました。現在では、子どもを取り巻く環境が変わり、家族がそろって

食卓を囲む機会は減り、ひとりで食べる子どもの「孤食」が少なくありません。また高齢者の「孤食」も増えてきています。子どもの「孤食」は好きなものだけを食べるといった偏食が習慣化することにつながり、高齢者の「孤食」は粗食になりやすく、栄養の偏りも心配になります。

特に朝食は、登校時間や出勤時間に合わせ各自で食べてしまい、家族がバラバラに食事をしがちです。せめて、休日は家族みんなで食事をするように心がけるとよいでしょう。

また、行事食や郷土料理を家族で作ったり食べたりすることで、日本の伝統的な食文化を伝える機会となり、親子のコミュニケーションを深めることができます。

高齢の方の「孤食」では食欲が低下し、栄養の偏りにつながりやすいため、家族や仲間と一緒に食べることで、元気にいきいきと過ごすことにつながります。地域の食事会や料理教室などに積極的に参加し、食を通して地域の人たちと交流しましょう。

楽しい食事は人とのコミュニケーションから生まれます。

コラム 食育4 私の健康宣言

平成27年6月27日（土）に開催した「第2次しろい健康プラン策定に関する講演会」において、参加者が5年後の自分をイメージした目標「私の健康宣言」を立てました。

【食育推進計画の健康宣言】

食べ過ぎないように気をつけます

3食バランスよく食べます

おやつの食べ方を工夫します

ゆっくりよく噛んで食べます

※資料編に「第2次しろい健康プラン策定に関する講演会」の詳細を掲載してあります。

(2) 農業への理解と食文化の継承と普及

【健康課題からみえた市の取り組み】

給食では子どもの好き嫌が多く、給食関係者の中で課題になっています。特に野菜や豆類、魚類のメニューで残菜が多く、苦手な食材は手を付けずに残菜とになってしまうことがあります。また、苦手な食べ物が少ない子どもほど食べ物を大切に感じていることがアンケートの分析から分かりました。

地元農産物への関心を持つことは、生産者や食への感謝の気持ちを育み、また命の存在や自然の恵みに気づくことができるため、保育園給食や学校給食で地元農産物の利用を促進します。

また、家庭で食事の手伝いをあまりしていない小学生が42.7%、中学生が49.4%います。家庭で子どもが食事の準備に関わることなどの経験は食への関心を高め、食文化を学ぶことにつながります。子どもの頃から食に関わる経験をすることの大切さを伝えていきます。

【現状値及びめざそう値】

目標項目	現状値			めざそう値	
	数値	測定年度	現状値の出所	数値	測定年度の目安
食事を残したときに「もったいない」と思う子どもの割合の増加（小学生・中学生）	小学生 90.2% 中学生 90.3%	26年度	白井市民の「健康」に関するアンケート調査	小学生 93.0%以上 中学生 93.0%以上	31年度
学校給食への地元農産物の利用品目数の維持	13品目	26年度	学校教育課の調査	13品目以上	31年度
食事の手伝いをいつも、時々している子どもの割合の増加（小学生・中学生）	小学生 56.7% 中学生 50.2%	26年度	白井市民の「健康」に関するアンケート調査	小学生 60.0%以上 中学生 55.0%以上	31年度

【主な取り組み事業】

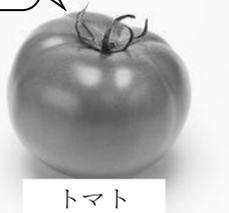
事業名	事業の概要	担当課	関係機関
給食事業	保育園給食や学校給食で、子どもに安全で新鮮な地元農産物を提供し、子どもや保護者へ地元農産物の紹介をします。 また、四季折々の行事食を提供することにより日本の食文化を伝えます。	○保育課 ○学校教育課 ○農政課	○JA 西印旛農産物直売組合白井支部（やおばあく）
食育事業	保育園や学校などの食育活動において箸の持ち方や食事のマナー、日本型食生活の良さや四季折々の行事食などの食文化を伝えます。 みそ作り体験教室などを通して日本型食生活の良さや食文化を伝えます。	○健康課 ○保育課 ○学校教育課 ○農政課	○農産物加工研究会
食の啓発事業	保育園や学校などにおいて、家庭で食事の手伝いをすることや、食に関する経験をすることの大切さについて啓発します。	○保育課 ○学校教育課	

【市民の皆様への提案～こんなことからやってみよう！】

乳幼児期	●「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶をすることで、食への感謝の気持ちを表そう。
学齢期 成人期 高齢期	●「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶をすることで、食への感謝の気持ちを表そう。 ●地元の農業や農産物について関心を持つ。 ●家庭の食事で行事食を取り入れ、日本の食文化や季節感を味わおう。 ●日本型食生活のよさを理解し、家庭の食生活に取り入れよう。

コラム 食育5 白井の主な農産物を紹介します！

真っ赤なトマトはリコピンたっぷり！



トマト

利尿作用があります。



きゅうり

疲労回復に効果あり！



アスパラガス

たんぱく質やビタミンB1が豊富です。



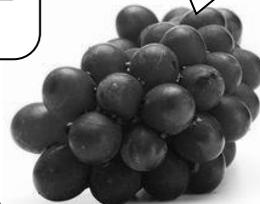
枝豆

生産量が千葉県内で一番！便秘予防や血圧を正常に保つ効果あり。



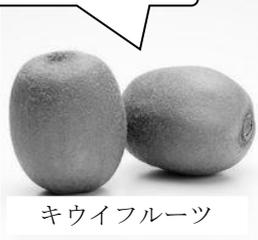
梨

ポリフェノールたっぷり！



ブドウ

ビタミンCたっぷり。



キウイフルーツ

食物繊維が含まれ、便秘予防の効果あり。



里芋

疲労回復や免疫力アップ効果があります。



自然薯

体をあたため、免疫力アップ効果があります。



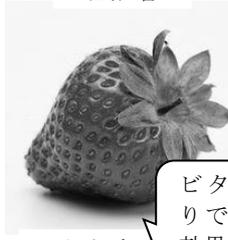
ネギ

カロテンたっぷり、緑黄色野菜です。



ほうれん草

ビタミンCたっぷりでお肌つるつる効果。



イチゴ

ほかにも小松菜、じゃがいも、さつま芋、落花生、白菜、人参、なす、ピーマン、きゅうり、ゴボウ、玉ねぎなどおいしい農産物がたくさんあります。

(3) 地域の食に親しめるような取り組みの充実（地産地消の促進）

【健康課題からみえた市の取り組み】

農作物を購入する時に、千葉県産または白井産を選ぶ人は35%でした。地元農産物を紹介し、市民が安全で新鮮な旬の地元農産物を選びやすくする取り組みが必要です。

また、地産地消を推進し、農業体験や地域活動を通じて「食」と「農」の関係を学び、理解が深められる取り組みが必要です。

【現状値及びめざそう値】

目標項目	現状値			めざそう値	
	数値	測定年度	現状値の出所	数値	測定年度の目安
農作物を購入時、千葉県産、または白井産を選ぶ割合の増加（20歳以上）	35%	26年度	白井市民の「健康」に関するアンケート調査	45%以上	31年度

【主な取り組み事業】

事業名	事業の概要	担当課	関係機関
食の啓発事業	各種料理教室で旬の地元農産物を活用するとともに、地産地消を促進するよう啓発を行います。 JA西印旛農産物直売組合白井支部と協力し白井産農産物の啓発を行います。 市ホームページで白井産農産物のレシピを紹介し、地産地消の促進を啓発します。	○健康課 ○農政課	○食生活改善推進員協議会 ○市民団体 ○JA 西印旛農産物直売組合白井支部（やおばあく） ○農産物加工研究会
地産地消の支援	JA西印旛農産物直売組合白井支部のイベントの開催や農産物加工研究会の教室開催、市民農園の開設のための支援を行います。	○農政課	○JA 西印旛農産物直売組合白井支部（やおばあく） ○農産物加工研究会

【関係機関への提案】

事業所など	●イベントの開催や体験教室などをとおして農産物の紹介や地産地消の促進に努めます。
-------	--

【市民の皆様への提案～こんなことからやってみよう！】

成人期 高齢期	●千葉県や白井の農産物について関心を持ち、なるべく地元農産物を購入しよう。 ●地域で行われる食育に関するイベントなどに積極的に参加しよう。
------------	--

3. 食育を推進するための食環境の整備

(1) 食育に関わる人材育成とネットワークづくり

【健康課題からみえた市の取り組み】

「食育」の言葉と意味を知っている人の割合は、64.5%でした。

食育を推進するための人材としては、食生活改善推進員が活動の中心となっていますが、さらに活動を広めていくために、(仮)食育推進ボランティアなどを育成し、食育に関わる人を増やします。

また、関係機関との連携により食育を推進していきます。

【現状値及びめざそう値】

目標項目	現状値			めざそう値	
	数値	測定年度	現状値の出所	数値	測定年度の目安
食育の言葉も意味も知っている人の割合の増加(20歳以上)	64.5%	26年度	白井市民の「健康」に関するアンケート調査	75%以上	31年度

【主な取り組み事業】

事業名	事業の概要	担当課	関係機関
食生活改善推進員活動事業	各種料理教室やイベントなどで食育を推進します。	○健康課	
(仮)食育推進ボランティア育成事業	食育を推進するために食育推進ボランティアを育成し、食育に関わる人を増やします。	○健康課	○市民団体
栄養士連絡会	健康課、保育園、学校教育課の栄養士が連携し、食育を推進するための情報交換を行います。	○健康課 ○保育課 ○学校教育課	
他職種との連携	さまざまな場面で食育を推進するために、保育士や保健師、看護師、歯科衛生士、介護関係者などのさまざまな専門職との連携を行います。	○健康課 ○保育課 ○高齢者福祉課 ○社会福祉課	

【市民の皆様への提案～こんなことからやってみよう！】

成人期
高齢期

●食に関心を持ち、食育について理解し、市などが実施する食育活動に積極的に参加しよう。

(2) まちをあげた食育推進の取り組み

【健康課題からみえた市の取り組み】

食育について市に力を入れて欲しい取り組みでは、栄養や健康に関する情報提供を望む人が38.1%でした。

市とともに食に関わる人やお店、関係団体などが一丸となり、市民がさまざまな場から食育に関する情報が得られ、食に関心が持てるよう取り組みます。

【現状値及びめざそう値】

目標項目	現状値			めざそう値	
	数値	測定年度	現状値の出所	数値	測定年度の目安
食に関する指導の全体計画及び年間計画を作成している学校数の増加	10校	26年度	学校給食実施状況等調査	14校	31年度

【主な取り組み事業】

事業名	事業の概要	担当課	関係機関
食の啓発事業	健康的な食に関する情報を出先公共施設や飲食店、販売店に設置し、普及啓発を行います。 イベントなどで健康的な食事について啓発します。	○健康課	○食品衛生組合 ○食生活改善推進員協議会 ○市民団体
食の安全への取り組み	保育園給食や学校給食では安全な食材を使用し、食中毒の予防に努めます。 食品衛生組合は、食品衛生講習会に参加し、食の安全に努めていきます。 家庭での食中毒予防のための啓発を行います。	○健康課 ○保育課 ○学校教育課	○食品衛生組合

【食を提供する店舗への提案】

飲食店や商店

●健康的なメニューを取り入れ、市の健康情報の提供に協力します。

【市民の皆様への提案～こんなことからやってみよう！】

幼児期
学齢期

●食を大切にしよう。

成人期
高齢期

●食に関する正しい情報を取り入れよう。
●食の安全と安心の確保について、自ら学び、理解を深め食生活に取り入れよう。

コラム 食育6 食生活改善推進員の取り組み

食生活改善推進員は市から委嘱を受け、食を通じた健康づくりを目的に活動しています。子どもから大人までの市民の皆様に料理教室やお祭りなどのイベントなどで、食の大切さを伝える活動を行っています。

野菜もちゃんと食べると体が元気になるよ。



おやこ料理教室



保育園での食育活動



男性料理教室



カルシウムとりましょうね。



イベントでの啓発

◎食育推進計画事業一覧◎

※「○」は具体的取り組みに該当する事業で、そのうち「●」については重点的に取り組む事業です。

No	【主な取り組み事業】 事業名	該当する事業	具体的取り組み						
			1-(1)	1-(2)	2-(1)	2-(2)	2-(3)	3-(1)	3-(2)
			生涯にわたるライフステージに応じた食育の推進	食育による生活習慣病の予防及び改善	食を通じたコミュニケーションの推進	農業への理解と食文化の継承と普及	地域の食に親しめるような取り組みの充実（地産地消の促進）	食育に関わる人材育成とネットワークづくり	まちをあげた食育推進の取り組み
1	食の啓発事業	おすすめレシピ啓発事業 重点的取り組み 1	●						
2		保育園での食育推進事業	○		○	○			
3		学校での食育推進	○		○	○			
4		各種料理等の教室事業 重点的取り組み 2			●		○		
5		市HPによる白井産農産物のレシピ					○		
6		飲食店や商店への健康に配慮したメニューの提案							○
7	食育事業	幼児健康診査（1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査）	○	○					
8		かみかみ教室	○	○					
9		プレ☆パバママスクール	○						
10		生活習慣病予防教室事業		○					
11		各種料理等の教室事業	○	○		○			
12		食に関する市民向け講座	○		○				
13		保育園での食育推進事業	○	○		○			
14		栄養指導の充実事業	○	○					
15		学校での食育推進	○	○		○			
16		いきいき夢情報教室	○						
17	給食事業	保育園給食事業	○	○	○	○			
18		学校給食事業	○	○	○	○			
19	相談事業	4か月育児相談事業	○						
20		幼児歯科健康診査事業（2歳児）	○						
21		幼児健康診査事業（1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査）	○						
22		健康相談事業	○						
23	特定保健指導事業		○						
24	児童館での食育活動			○					
25	高齢者食事会事業			○					
26	地産地消の支援	農産物加工研究会への支援					○		
27		市民農園開設の支援					○		
28		JA西印旛農産物直売組合白井支部への支援					○		
29		なし坊フェスタの開催支援					○		
30	食生活改善推進員活動事業	食生活改善推進員活動事業						○	
31		食生活改善推進員養成事業						○	
32	(仮)食育推進ボランティア育成事業	(仮)食育推進ボランティア育成事業						○	
33	栄養士連絡会	栄養士連絡会						○	
34	他職種との連携	他職種との連携						○	
35	食の安全への取り組み	食品衛生管理の普及啓発事業							○
36		食の安全への取り組み							○
37		保育園給食事業							○
38		学校給食事業							○

